

韓国語接続助詞 neunde の機能

池 玫京

要旨

本研究は韓国語接続助詞neundeを対象にその機能を明らかにすることを目的とする。従来の研究で示されなかった分類の基準を設定して、実際のデータを分析、neundeで接続される前後関係をまとめた。neundeの用例は条件関係の有無、条件命題との一致、従属/対等、時間的連続性の有無、前件の必要性という五つの基準で、六つのケースに分類される。今回の分析ではneundeが他の接続助詞とは異なって、順接と逆接の両方を表せること、neundeの解釈を決めるのは前後の命題内容であることが確認された。本研究はneundeに概念的意味はなく、各ケースはneundeであり得る一つの解釈であると考えられる。

また、今回の分析結果はneundeを手続き的情報だと主張したNoh (2008) の問題点を改善したものと考えられる。Noh (2008) の「セグメント分離指示」という説明では、単文の連続とneunde文に同じ解釈過程が想定され、neundeの特徴が示せない。そこで、本研究はneundeが「関連付けを意図明示的に指示する手続き的コード」であることを提案し、Noh (2008) の問題点を解決した。この提案によって、neundeは単文の連続や他の接続助詞とは性質の異なるものとして位置づけられる。

キーワード： 接続助詞, 前件と後件の命題内容, 手続き的情報, 意図明示, 関連付け

1. はじめに

韓国語の接続助詞neunde¹⁾は前件を理由として後件を提示する、いわゆる順接の関係を表すことができる。この場合のneundeは理由を表す接続助詞「니까nikka」に置き換えられる。

- (1) 비가 오는데 우산 하나 삽시다.
bi-ga o-neunde usan hana sa-psida
雨-が 降る-[neunde] 傘 一つ 買う-[勧誘]
雨が降っているから傘を一つ買しましょう。

(1-1) 비가 오니까 우산 하나 샅시다.

bi-ga o-nikka usan hana sa-psida

一方、前件の命題内容から期待されない事態が後件に現れる逆接の関係も、neundeで一つの文に結ぶことができる。この場合のneundeは逆接の接続助詞「지만jiman」に置き換えられる。

(2) 공부를 열심히 했는데 시험을 못 봤다.

gongbu-reul yeolsimhi hae-ss-neunde siheom-eul mot bwa-tda.

勉強-を 一生懸命 する-[過去]-[neunde] 試験-を [不可能] 見る-[過去]

勉強を一生懸命したのに試験があまりできなかった。

(2-1) 공부를 열심히 했지만 시험을 못 봤다.

gongbu-reul yeolsimhi hae-ss-jiman siheom-eul mot bwa-tda.

なぜ順接と逆接の関係が同じ言語形式で表せるのだろうか。例文 (1) と (2) を見ているとneundeは因果関係が想定できるとき使われるように思われるが、下の (3) のように、因果関係が介入せず時間が関わる接続にも用いることができる。この場合は時間を表す「때ttae」に置き換えられる。

(3) 학교에 가는데 친구를 만났다.

haggyo-e ga-neunde chingu-leul manna-ssda

学校-に 行く-[neunde] 友だち-を 会う-[過去]

学校に行くとき友だちに会った。

(3-1) 학교에 갈 때 친구를 만났다.

haggyo-e gal ttae chingu-leul manna-ssda

このように多岐にわたるneundeの用法を、Lee (1979) をはじめとする多くの研究は「背景作り」とする²⁾。しかし、なぜ順接と逆接、そして時間性が関わる接続までneundeが使えるのかは説明されていない。そこで、本研究はneundeの機能を明らかにすることを目的に、実際の言語データを分析する。従来の意味分類とは違って、分類の基準となる項目を設けた上で用例のケース分けを行い、その結果からケース間の関係を示すことでneundeの機能を探る。

2. neunde の形態的特徴

韓国語の接続助詞はその種類が非常に多く、様々な意味関係の複文を構成する。その中には統語的制約からある種類の述語しか取らないもの、または述語の種類によって違う形を取るものがある。以下の例文は述語の種類によるneundeの異形態を表している³⁾。

- (4) a 나는 일을 하는데 친구는 텔레비전을 본다.
 na-neun il-eul ha-neunde chingu-neun tellebijeon-eul bo-nda
 私-は 仕事-を する-[neunde] 友達-は テレビ-を 見る-[現在]
 私は仕事をしているけど友達はテレビを見ている。
- b 나는 일을 했는데 친구는 텔레비전을 보았다.
 na-neun il-eul hae-ss-neunde chingu-neun tellebijeon-eul boa-tda
 私-は 仕事-を する-[過去]-[neunde] 友達-は テレビ-を 見る-[過去]
 私は仕事をしたけど友達はテレビを見た。
- (5) a 오늘은 바쁜데 내일은 시간이 많다.
 oneul-eun bappeu-nde naeil-eun sigan-i manhda
 今日-は 忙しい-[neunde] 明日-は 時間-が 多い
 今日-は忙しいけど明日-は時間が多い。
- b 내일은 시간이 많은데 오늘은 바쁘다.
 naeil-eun sigan-i manh-eunde oneul-eun bappeuda
 明日-は 時間-が 多い-[neunde] 今日-は 忙しい
 明日-は時間が多いけど今日-は忙しい。
- (6) 나는 학생인데 친구는 회사원이다.
 na-neun hagsaeng-i-nde chingu-neun hoesawon-ida
 私-は 学生-だ-[neunde] 友達-は 会社員-だ
 私-は学生だけけど友達は会社員だ。

(4) は動詞述語でaの非過去、bの過去ともに「는데neunde」の形を取る。(5) は形容詞述語で、母音終り語幹はaのように「ㄴ데nde」、子音終り語幹はbのように「은데eunde」になる。(6) は名詞述語で「이다ida (だ)」と「는데neunde」を組み合わせて「인데inde」の形で使われている。ただし、形容詞述語と名詞述語も過去を表す「았/었ass/eoss⁴⁾」を伴う際は、動詞述語と同じ「는데neunde」と結合する。述語による異形態をまとめると表1のようになるが、本研究ではそれらを全てneundeとして扱う。以下3節ではneundeの先行研究で見られる問題点を指摘した上で、本研究の立場を示す。

述語の種類	動詞		形容詞		名詞	
	母音	子音	母音	子音	母音	子音
非過去	는데 neunde		ㄴ데 nde	은데 unde	ㄴ데 nde	
過去	는데 neunde					

表 1. neunde の異形態

3. 先行研究

接続助詞neundeに関する先行研究は大きく二つの流れに分かれる。その一つ目は、意味分類を中心とした研究で、Seo (2006) が挙げられる。Seo (2006) はneundeを「状況接続素」と定義し、「説明状況」「対照状況」「指示・勧誘状況」「含蓄状況」に細分類した。しかし、その基準が述べられていないため、どちらに分類されるのか紛らわしい例文が多く、用法間の関係が分かり難いという問題がある。

もう一つの流れは、語用論的観点からの総合的説明である。その一番最初はLee (1979) で、neundeのコミュニケーション効果を指摘した点で意義がある。Lee (1979) によると、コミュニケーションの目的は新しい情報や話し手の気持ち、態度を伝達することである。そのためには古い情報を手がかりに背景を作ることが必要となるので、neundeが「背景設定素」として働くという主張である。しかし、背景という定義に前提される前件と後件の遠近関係が、実際の例文では見られないものが多いという点でneunde全体に該当する説明ではなかった。

Kim (1981) はLee (1979) を一部修正してneundeは「状況提示語」としてとした。特に「反対⁵⁾」用法を取り上げて、neundeが「反対」の意味を持っているのではなく、前件と後件の内容によって生じるものだとして述べた。これは前後の命題内容がneundeの解釈に大事な役割をすることを示唆しており、本研究はこの意見に概ね賛成しているが、さらにもう一点指摘しておきたい。neundeの解釈が前件と後件の意味内容とそれらの関係によって決まるものであるなら、neunde独自の意味は存在しないという結論に至る。他の接続助詞が理由、原因、継起など独自の意味を持ち、常にその意味で前件と後件を結び付けるのと違って、neundeは決まった意味を持たないという点は、他の接続助詞には見られないneundeの特徴として注目する必要がある。

以降、談話におけるneundeの機能を探ったものとしてLee (1994) があるが、基本的にLee (1979) を受け継いでいる。談話は参加者が持っている知識の上に成り立ち、その展開過程では常に既存知識による予想や期待が行われると述べた。予想から外れる事態があったときは情報性が上昇するが、それを軽減して話を理解するためにneundeで「情報の点検 (situation monitoring)」を行うのだと言う。談話展開過程における予想と期待の

重要性は適切な指摘だと思われる。ただ、neundeが不一致、不連続の解消のために用いられるのであれば、対比や逆接と呼ばれるもの以外にはneundeが機能しなくなるという問題点がある。

さらに関連性理論⁶⁾からneundeを考察した研究もある。Noh (2008) はBlakemore (1987) を引用して、意味には真理条件的である概念的意味 (conceptual meaning) と解釈過程をコントロールする手続き的意味 (procedural meaning) があると述べた。そして、neundeは前件と後件を別のセグメントとして処理するよう聞き手を案内するので、手続き的意味を持っていると主張した。関連性理論の従来の研究では、英語の接続詞の手続き的機能を取り上げたものが多く、その概念を接続助詞に適用したことは今後の接続助詞の研究に影響を与えらると思われる。しかし、別のセグメントとして処理するだけではneundeの前件と後件を単文二つに分けて並べることになり、単文の連続と同じ解釈過程が想定されてしまう。そうするとneundeで複文を作る意味がなくなるので、neundeは言語形式として独自の機能を果たしているのかという疑問が起きる。

以上、neundeの先行研究を振り返ってみたが、一番大きな問題点としては多岐にわたるneundeの使い方をどのように分類するか、その基準が明確ではないことが挙げられる。一定の基準が定まらない限り、分類の意義も示せないと思われる。そして、従来の研究ではneundeの実例を採集、分析したものはあまりなかった。より具体的にneundeの機能を議論するためには、まず実際の用例を分析する必要がある。そこで、本研究では自然言語のデータから採集した用例を5項目の分類基準によって分けた。その結果を4節で報告する。

4. 用例分析

本研究は現代韓国語を対象にしており、neundeは話しことばと書きことばを区別せず使われている。したがって、今回の分析では現代韓国語の話しことばと書きことばからneundeの用例を採集した⁷⁾。話しことばはテレビドラマ480分、トーク番組180分、ラジオ番組240分で、合計900分のデータを集めた⁸⁾。一方、書きことばは韓国国立国語院が提供する21世紀世宗コーパスを用いた。これは小説や新聞、小説以外の本、雑誌などから構築されているが、今回は新聞18707語節⁹⁾、科学関係説明文31648語節、文化関係説明文16197語節、雑誌27802語節、合計94354語節を対象にした¹⁰⁾。検索は音素単位に対応するユニコンクというプログラムを使用し、neundeとその異形態であるeunde/ndeも対象にした¹¹⁾。

4. 1 分析の基準

今回見つかったneundeの用例は521件で、「条件関係の有無」「条件命題との一致」「従属/対等」「時間的連続性」「前件の必要性」という基準を設け、表2のように6つのケース

に分けた。以下ではケース分けの基準について述べる。

I 条件関係	有	II 条件命題との一致	有	ケース 1		
			無	III 従属	ケース 2	
				対等	ケース 3	
	無	IV 時間的連続性	有	ケース 4		
			無	V 前件の必要性	低	ケース 5
					高	ケース 6

表 2. neunde のケース分けの基準

neundeの使い分けを決める一番大きな基準として「条件関係の有無」が挙げられる。ここで条件関係があるというのは、事態の間に「PであればQ」という条件命題が見出せることを意味し、QはPから生じる予想だと考える¹²⁾。

- (7) 비가 오는데 우산을 씁시다.
bi-ga o-neunde usan-eul sseu-bsida
雨-が 降る-[neunde] 傘-を 差す-[勧誘]
雨が降っているから傘を差しましょう。

- (7-1) P : 雨が降る、Q : 傘を差す
P→Q : 雨が降れば傘を差す

(7) は (7-1) が示すように、「P : 雨が降る」と「Q : 傘を差す」の二つの命題からなる。その間には「P→Q : PであればQ」、「雨が降れば傘を差す」という条件命題が想定できるので条件関係があるものと考えられる。この段階では実際にPとQの事態が起きたのかは論外にし、P→Qという命題が想定できるかだけを見る。

条件関係が存在するものについては、第二の「条件命題との一致」という基準が考えられる¹³⁾。条件命題が現実の事態として表されたとき「PなのでQ」のように条件命題に一致するものがある一方、一致しないものもある。その場合「P→~Q : PなのにQではない」「~P→Q : PでないのにQ」「P→R : Pなのに (全く別の事態) R」という事態が考えられる。

- (8) 비가 왔는데 우산을 안 썼다.
bi-ga wa-ss-neunde usan-eul an sseo-ssda
雨-が 降る-[過去]-[neunde] 傘-を [否定] 差す-[過去]

雨が降ったけど傘を差さなかった。

(8-1) P : 雨が降る、 ~Q : 傘を差さない

P→Q : 雨が降れば傘を差す

(7) は「P→Q : 雨が降れば傘を差す」という条件命題に一致する事態の実現を表している。一方の (8) は同じ条件命題を有するが「P→~Q : 雨が降ったけど傘を差さない」の事態が現れている。(7) と (8) の根底にある条件関係は同じだが、(7) はそれに一致する事態、(8) は一致しない事態という点で異なる。(7) は条件関係があり、かつそれに一致する事態ということでケース1となる。

条件関係に一致しないグループは第三の基準「従属/対等」で、さらに二つのグループに分かれる。前件が後件の従属節である場合はケース2とし、対等節である場合はケース3とした。

(8-2) ??우산을 안 썼는데 비가 왔다.

??傘を差さなかったのに雨が降った。

(9) 저번에는 점수가 좋았는데 이번에는 안 좋다.

jeobeon-e-neun jeomsu-ga joh-ass-neunde ibeon-e-neun an johda

前回-には 点数-が 良い-[過去] -[neunde] 今回-には [否定] 良い

前回は点数が良かったのに今回は良くない。

(9-1) P : 前回は点数が良い、 ~Q : 今回は点数が良くない

P→Q : 前良くできたのであれば次も良くできる

(9-2) 이번에는 안 좋은데 저번에는 점수가 좋았다.

今回は良くないのに前回は点数が良かった

「従属/対比」を判断するテストとしては前後件の逆転がある。対等節なら前件と後件の順番が自由に換えられ、逆転しても意味が変わらないと思われる。(8) の前後を (8-2) のように変えてみたが、(8-2) は意味を保持せず前後が対等節ではないことが分かった。そこで、(8) をケース2に分類する。一方、(9) は (9-2) のように順番を換えても問題がなく、意味も変わらない。したがって、(9) の前件と後件は対等節であると判断してケース3とする。

上記のケース3までが条件関係があるグループで、条件関係がないものには第四の基準

である「時間的連続性」が関わってくる。

- (10) 집에 도착했는데 전화가 왔다.
jib-e dochagha-ess-neunde jeonhwa-ga wa-ssda
家-に 到着する-[過去]-[neunde] 電話-が 来る-[過去]
家に着いたら電話が掛かってきた。

(10) は「P: 家に着く」と「Q: 電話が掛かってくる」という二つの出来事が考えられるが、条件関係は存在しない。その代わりに P と Q には時間的順序が考えられ、「Pその後Q」と解釈される。(10) のように時間的連続性を持つ用例をケース4とする。

条件関係も時間的連続性も持たない用例には、第五の基準「前件の必要性」が考えられる。前件の必要性が低い場合、後件だけでも成り立つものをケース5、前件の必要性が高く、後件だけでは成り立たないものをケース6として分ける。

- (11) 다시 한 번 말하는데 내일 시험은 정말 중요합니다.
dasi han beon malha-neunde naeil siheom-eun jeongmal jungyoha-bnida
再び 一 番 言う-[neunde] 明日 試験-は 本 当 に 重 要 だ-[丁寧]
もう一度言いますけど、明日の試験は本当に重要です。

(11-1) 내일 시험은 정말 중요합니다. 明日の試験は本当に大事です。

- (12) 형은 학생인데, 성적도 우수하고 운동도 잘 한다.
hyeong-eun hagsaeng-i-nde seongjeog-do usuha-go undong-do jal handa
兄-は 学生-だ-[neunde] 成績-も 優秀だ-[接続] 運動-も よく する
兄は学生だけど、成績優秀でスポーツもできる。

(12-1) 성적도 우수하고 운동도 잘 한다. 成績優秀でスポーツもできる。

(11) は前件を削除しても意味の変化はないが、(12) の前件を削除すると情報が抜けてしまう。このように前件削除テストで前件の必要性を確認し、その結果によってケース5と6に分けた。次節では以上5項目の基準で分類したneundeのケース別特徴をまとめる。

4. 2 分析結果

今回の分析では4.1で示した分類基準を使いneundeを六つのケースに分けた。考察の結果、ある人称を好んだり特定のテンスが多いといった傾向はあるものの、文法性判定に

関係する強い統語制約は見つからなかった。また、置き換えできる接続助詞についてはケース別に言及する。

4. 2. 1 ケース1

ケース1には「PであればQ」という条件関係が存在し、それに一致する事態PとQが表されている。ケース1のPとQはいわゆる順接の関係にあり、今回のデータでは話し手が前件の内容を理由、根拠として提示した上で、後件の内容を聞き手に伝える特徴があった。つまり、ケース1のneundeは後件の主張や要求、結論を円満に出すため、あるいは後件が成り立つための理由として前件を述べているのである。検索された用例の後件には評価、行為要求、意志表明など様々なモダリティ表現が現れるが、前件が後件を裏付ける理由・根拠で、後件の説得力を高める役割をするという点は共通していた。

(13) 평생을 좌우하는 결혼인데 그 정도 투자해야죠.
pyeongsaeng-eul jwauha-neun gyeolhon-i-nde geu jeongdo tujaha-eya-jyo
一生-を 左右する-[連体] 結婚-だ-[neunde] その 程度 投資する-[当為]
一生を左右する結婚だからそれくらい投資しなくちゃ。 <サムスン>

(13-1) 条件命題：「大事なことには投資する」
P：結婚は一生を左右する (=大事なことである) →Q：投資する

(13-2) 평생을 좌우하는 결혼(은 아주 중요한 일이다)neunde 그 정도 투자해야죠.
一生を左右する結婚 (はとても大事なことだ) からそれくらい投資しなくちゃ。

(13) には「大事なことであれば投資する」という条件命題が想定できる。これによって「P：結婚は一生を左右する」から「結婚は大事なことである」、そして「Q：投資する」へと推論が行われ、(13-2) のように解釈される。(13) の前件は後件で現れる結論を導き出す推論の出発点である同時に、後件の根拠にもなり、後件にはPから期待される結果「Q：投資する」が現れている。ケース1のneundeは理由の接続助詞「니까nikka」への置き換えもできる。

4. 2. 2 ケース2

ケース2はケース1と同様に条件関係があるが、想定される条件命題に一致しない事態が前後に並べられる逆接の関係である。そのため、予想と食い違った結果に対する驚きや意外性が表される。

(14) 어렵지 않은 말인데 잘못 사용하고 있습니다.
 eolyeobji anh-eun mal-i-nde jalmos sayongha-go iss-seubnida
 難しく ない-[連体] ことば-だ-[neunde] 誤って 使用する-[接続] いる-[丁寧]
 難しいことばなのに誤って使っています。 <想像>

(14-1) 条件命題：「難しくなければ間違えない」
 P：難しいことばである →Q：間違えない
 P：難しいことばである →~Q：間違える

(14-2) 어렵지 않은 말(이면 틀리지 않을 것)neunde 잘못 사용하고 있습니다.
 難しいことば (であれば間違えないはず) なのに誤って使っています。

例文(14)の条件命題は「難しくなければ間違えない」という一般性の高いものである。この条件命題によって「P：難しいことば」から「Q：間違えない」という結果が予想される。ところが、後件には条件命題に一致しない「~Q：誤っている」が現れて(14-2)のように食い違った結果への意外性として解釈される。

また、ケース2の用例の一部はneundeの後に「도do」が付いていた¹⁴⁾。「는데doneundedo」は逆接の関係にあるときのみ使え、ケース1は「는데doneundedo」の形が使えない。また、ケース2の多くは逆接の接続助詞「지만jiman」に置き換えられるので、ケース1との違いが再び確認できる¹⁵⁾。

4. 2. 3 ケース3

ケース3の用例は従来の研究で対比と呼ばれ、neundeの主な用法として頻繁に言及されてきた。今回の調査では用例が少なく、より複雑な構造をしていた。主語は個人同士だけではなくグループでも可能で、述語も必ず意味が反対になるものや肯定と否定を並べる必要はなかった。対比のスコープが大きい場合は、節全体が一つの固まりとして対比されることもあった。このようにケース3は制約が少ないように見えるが、前件と後件で対比される項目以外は全ての変数が固定されていた。この点はケース全体に共通して現れる統語構造である。ケース3もケース2と同じく条件命題に一致しない。

(15) 일반인은 잘 모르는데 음악인들 사이에서는 유명해요.
 ilbanin-eun jal moleu-neunde eumagin-deul sai-eseo-neun yumyeonghae-yo
 一般人-はよく知らない-[neunde] 音楽人-たち 間-で-は 有名だ-[丁寧]
 一般の方はよく知らないけど音楽やってる人の間では有名なんです。 <ベバ>

- (15-1) 条件命題：「あまり知られていない人なら有名ではない」
 P：一般の人はあまり知らない →Q：有名ではない
 P：一般の人はあまり知らない → \sim Q：音楽をやっている人には有名

(15-2) 일반인은 잘 모르(니까 유명하지 않을 것) neunde 음악인들한테는 유명하다.
 一般の人はよく知らない（から有名ではないはずだ） けど 音楽をやっている人には有名だ。

(15-3) 음악인들 사이에서는 유명한테 일반인은 잘 몰라요.
 音楽やってる人の間では有名ですけど 一般の方はよく知りません。

例文(15)は(15-1)のような条件関係が想定され、前件の事態「P：一般人はよく知らない」から予想されるのは「Q：有名ではない」であるが、後件で「 \sim Q：音楽をやっている人には有名」と述べられ対比の効果を出す。ケース3の後件も予想に反する事態なので、ケース2と同様「-지만jiman」への置き換えができる。

しかし、ケース3は前件と後件の逆転可能性から見るとケース2とは大きく異なる。(15-3)が示すように、ケース3は前件と後件の順番を換えても意味を保持する。一方のケース2は前後件の逆転によって意味が変わってしまう。これはケース2が因果関係に基づく条件命題を有するのに対して、ケース3はそのような因果関係が成り立たないためだと思われる。ケース3は対等に並べられた前件と後件で構成されおり、どちらかが原因になるわけではないので、配置を換えても問題ないのである。この点はケース2とケース3を分ける大きな違いである。また、対比の意味を強化する「반대로bandaero(反対に)」や「반해banhae(逆に)」との共起、助詞「은/는eun/neun(は)」で対比の対象をマークする統語的特徴もあった。

4. 2. 4 ケース4

ケース4は条件関係はないが、前件と後件の間に時間的連続性が見られる。二つの出来事が時間の順番で並べられ、後件は前件の後に起きた出来事である。前件や後件の動作主が話し手であると想定される場合、自身の経験を述べる意味合いで解釈される。

- (16) 서랍을 열었는데 먼지가 좀 있었어요.
 seolab-eul yeol-eoss-neunde meonji-ga jom iss-eoss-eoyo
 引き出し-を 開ける-[過去]-[neunde] ほこり-が 少し ある-[過去]-[丁寧]
 引き出しを開けたらほこりが少しあったんです。 <女性時代>

例文(16)は、まず「引き出しを開ける」という動作があって、その次「ほこり発見」という流れである。つまり、前件の事態が先に起きてから後件の事態に進むのである。「ttae」への置き換えと「たら」「とき」の日本語訳からも時間との関わりが分かる。

4. 2. 5 ケース5

条件関係も時間的連続性もないグループとしてケース5がある。前件の動作主は話し手である割合が高く、後件で勧誘、行為要求、確認要求などの発話行為が多く見られた。さらに、ケース5は前件の必要性が低いため、後件だけでも文が成立する。以下では前件を削除する操作を行ってみた。

(17) 다시 한 번 얘기하는데 이걸 연구용이거든요

dasi hanbeon yaegiha-neunde igeo-n yeonguyong-i-geodeun-yo
再び一回話す-[neunde] これ-は 研究用-だ-[終結]-[丁寧]

もう一回言うけど、これは研究用ですから。

<ブドウ畑>

(17-1) 이걸 연구용이거든요. これは研究用ですから。

削除部分：「もう一回言う」

例文(17)は前件を削除して(17-1)に変えても自然な韓国語として成り立ち、前件は話を進める中で必須ではないように思われる。削除された前件には命題内容がほとんど含まれておらず、後件の発話について付け加えたものに過ぎない。つまり、前件は後件の発話行為に対する「注釈¹⁶⁾」であると考えられ、命題内容への貢献より語用論的役割が大きいと見るべきだろう。

ただし、ケース5に属する発話の注釈でも前件の性質は様々である。後件の発話の情報源を前件で提示する場合は、発話に対する謝りとは情報量において差があると思われる。前件の情報量が増えると文全体の命題内容へ貢献するようになる。そうなると前件の必要性が高まり削除できなくなるので、次のケース6につながるものだと考えられる。

4. 2. 6 ケース6

ケース6の基本的なパターンは説明の対象を前件で提示して、後件で説明や評価を加えるものである。Seo (2006) はこのような用法を「説明」と分類し、「主題-評価」の構造を指摘した。ところが、今回のデータでは前件で説明対象の提示と説明を同時に行う場合が多かった。

(18) 우디 앨런 역에는 뉴욕에서 살고 있는 유대인 남자를 캐스팅했는데 이 남자는 고소공포증에 정신치료를 받고 있고 설 새 없이 떠드는 Z의 실제 성격을 매우 훌륭하게 표현하는 캐릭터이다.

ウディ・アレンの役にはニューヨークに住んでいるユダヤ人の男性をキャスティングしたのだがこの男性は高所恐怖症で精神科治療を受けており絶えずしゃべっているZの実際の性格をととてもよく表現するキャラクターである。 <シネ21>

(18)の前件は「ユダヤ人の男性」という対象を提示すると同時に「ニューヨーク在住」「ウディ・アレン役にキャスティング」という情報も提供している。後件ではさらに「高所恐怖症で精神科治療中のZの性格をよく表現」という説明を付け加えており、前件は説明の対象を提示する機能以外に説明の機能もあることが分かる。要するに、ケース6において説明対象の提示は前件独特の機能だが、説明はどちらか一方に集中しているのではなく、前後件両方で情報が提供されるのである。前件も説明に参加するという事実は「背景提示」という前件の役割を越えているので、Lee (1979) を初めとした従来の研究では説明できない部分である。

5. neunde の機能

これまで韓国語接続助詞neundeのデータを分析し、どのような要因がneundeの使用に関わっているのかを考察した。4.1で提示したケース分けの基準は各ケースの特徴が反映されたもので、今まで明らかにならなかったneundeの使い方、それらの相違点と関係をはっきりさせる。しかし、そのような使い方が可能なのは、neunde自体によるものではないことに注目する必要がある。本研究が提示したケース分けの基準は、neundeの前後に現れる命題内容とその関係に関わるものである。要するに、ここで提示したケースというのは前件と後件によって生じるneundeの解釈で、neundeがその意味を持っているわけではない。この分析結果から、本研究はneundeに独自の意味はないという結論に至った。したがって、4.2で提示した各ケースはneundeの用法ではなく、neunde接続であり得る前件と後件の意味関係、解釈のパターンの一つとして考える。

それでは、複文におけるneundeの役割は何だろうか。これについては関連性理論からneundeを考察したNoh (2008) を修正しながら、本研究の考えるneundeの機能を提案する。Noh (2008) によれば、neundeは前件と後件を別のセグメントとして分離して文脈効果を生み出すように、聞き手を誘導する手続き的情報を持っている¹⁷⁾。neundeは真理条件の判断に関わる概念的情報ではなく、解釈過程で働くものであると理解できる。この主張はneunde独自の意味はないという本研究のデータ分析結果にもつながるところがあり、neundeは発話の解釈過程に関わる手続き的にコード化された言語形式として位置づけられる。ところが、Noh (2008) の「セグメント分離」効果は単文が連続する発話でも発

生する。上記の例 (13) のneundeを取り除いて単文の連続にすると (13-3) のようになるが、解釈は変わらず (13-4) のように考えられる。

(13-3) 평생을 좌우하는 결혼이에요. 그 정도는 투자해야죠.
一生を左右する結婚です。それくらい投資しなくちゃ。

(13-4) 条件命題：「一生を左右する大事なことは投資すべき」
P：結婚は一生を左右する→Q：結婚には投資すべき

まず、聞き手には既存の想定として (13-4) の条件命題が存在しており、そこに話し手の発話から新情報PとQが与えられる。PとQの関係は何も明示されていないが、聞き手は既存想定と「P：結婚は一生を左右する」、「Q：結婚には投資すべき」から推論を行った結果、QはPと条件命題から導かれる帰結であることを認識する。neundeで接続した場合もこれと全く同じ解釈過程が考えられるので、Noh (2008) の主張ではneunde独自の機能はないことになってしまう。

本研究ではこの問題点を踏まえた上で、neundeは「関連付けを意図明示的に指示する手続き的コード」であると提案する。neundeで接続されたPとQには関連性があり、話し手はneundeを用いることでPとQの関連付けを聞き手に指示すると考える。この指示には話し手の意図が明らかになっていて、聞き手は関連付けするように誘導されるのである。一方、単文の連続では関連付けを指示する意図は非明示的であるため、聞き手がどのように解釈をするかは任意的である。話し手の意図明示性で、neunde接続と単文の連続では異なる解釈過程が考えられる。

本研究はneundeの手続き的機能を認める点に関しては、Noh (2008) と同じ意見である。しかし、具体的な手続きの指示内容としてNoh (2008) の「セグメント分離」は問題があったため、neundeを「関連付けを意図明示的に指示する手続き的コード」と新たに定義した。これによってneunde接続と単文の連続の明確な違いを示すことができ、Noh (2008) の問題点が解決された。この違いこそがneunde独自の機能であると思われる。

6. まとめと今後の課題

本研究は韓国語接続助詞neundeの機能を明らかにするために、現代韓国語を対象に考察を行った。その結果、以下のことが分かった。第一に、データ分析からneunde接続における5項目の分類基準を確立し、それらがneundeの解釈を決めるファクターであることを確認した。これは従来の研究が限られた例文の分析に止まり、用法分類の基準が不明確だった点を改善したものである。第二に、今まで言及されてきたneundeの様々な用法はneunde自体の意味ではないことが分かった。今回の分析結果によると、neundeは順接

と逆接の関係を両方表せる。一見矛盾しているように思われるが、これはneundeに決まった意味があるわけではなく、前件と後件の意味関係によって解釈が生じるという結論を導く。第三に、neundeは「関連付けを明示的に指示する手続き的コード」であると指摘した。この指摘は「意図明示」というneunde独自の機能を示すものである。さらに、neunde文と短文の連続の関係に関わるNoh (2008) の問題点やその他従来の研究の問題点を解決したことにも意義がある。

今後はここで提示した提案を証明するために、韓国語母語話者を対象にテストを行う予定である。neunde文とそれを単文の連続に変換したもので母語話者の解釈は変わるのか、解釈にかかる時間に差は出るのかを調べる。このテストで解釈過程におけるneundeの機能が確認できると思われる。そして、neundeに置き換えられる他の接続助詞を検討する。今回の調査でもケース別に置き換え可能な接続助詞があったが、前件と後件の関係によって対応するものが変わった。置き換え表現を考察することによって、neundeの各ケースの特徴とneundeで表せる前後関係がさらに明らかになるとと思われる。そして、他の接続助詞とneundeの解釈過程の比較を通して、neundeの特徴をより明確にさせることを今後の課題とする。

註

- 1) 本研究における韓国語のローマ字表記は韓国文化部告示第 2000-8 呉(2000年7月7日)に従っており、実際の変換はプサン大学人工知能研究所が提供するローマ字変換機を用いた。
<http://roman.cs.pusan.ac.kr/>
- 2) Lee, G.D. (1979) , Kim, Y.S. (1981) , Jang, G.H. (1995) などを参照されたい。
- 3) 異形態の種類は Nam, G.S. & Go, Y.G. (1993) 参照、例文は作例。
- 4) 韓国語は述語の語幹に「ㄹ ass/으 eoss」を付けることで過去を表示する。述語の最後の母音が陽性(ㅏ, ㅑ, ㅓ) の場合は「ㄹ ass」、それ以外は「으 eoss」で実現される。
- 5) 「反対」という用語は「対比」として理解しても問題ないと思われる。ここでは原文の用語を言及するときはそのまま「反対」を使用するが、「対比」ということばが持っている「比べる」の意味がこの用法の重要な特徴であり、「反対」にはそのような意味が含まれないと考える。したがって、本研究の立場を述べる際には「対比」という用語を用いることにする。
- 6) 関連性理論 (Relevance Theory) は Sperber & Wilson (1986/1995) によって提案されたコミュニケーション理論である。彼らによれば、発話は聞き手の推論が始まる出発点となり、同時に推論の方向を導くものである。関連性理論が対象としている発話は、意図明示的なコミュニケーション (ostensive communication) に限っており、聞き手がどのようにして話し手の伝えようとした内容を理解するのか、そのメカニズムの解明を目標とする。
- 7) データの詳細については添付した用例出典を参照されたい。
- 8) ドラマは先に書かれた脚本があるので純粋な自然談話とは言えないが、文字化されていて文脈

の参照が容易であるため、今回は分析の材料として活用した。また、自然談話により近いテレビトーク番組とラジオ番組のデータも分析に取り入れた。

- 9) 世宗コーパスでは語節を単位にしてデータの量を示している。語節は分ち書きをする際の固まりで、単語、あるいは単語と助詞のまとまりからなる。
- 10) 世宗コーパスの書きことば編には小説データも多くある。しかし、今回は話しことばでドラマ脚本を用いたため、小説を加えるとデータの種類が物語的なものに偏る可能性があるとして、書きことばデータから外すことにした。
- 11) *neunde* の前後 50 音節を基本範囲と指定したが、前後文脈が必要なときには 50 音節を超えることもある。
- 12) この条件関係というのは因果関係になる場合もあるが、P を出発点として導かれる想定 Q という関係で成り立っており、因果関係とは本質の異なるものとして認識している。
- 13) 小泉 (1987) は事実文の根底には条件文が存在することを指摘した。条件文は「If p, then q」の構造をしており、条件文に一致する事実文が理由文「Because p, q」、一致しない事実文が譲歩文「Though p, not q」であると述べた。
- 14) 逆接や譲歩を表す「-아/어도 a/eodo」の形でよく使われて日本語の「も」に類似している。
- 15) ケース 2 の後件は、疑問形式を用いて予想に反する事態について問い掛けたり、非難、反語の意味合いを表すものもあったが、この場合「지만 *jiman*」への置き換えはできなかった。
- 16) 発話行為に対する注釈については日本語の研究でも指摘があり、才田いずみ他 (1983) が詳しい。
- 17) 東森 (2003) によると、手続き的情報というのは概念表示の構成要素になるものではなく、概念表示の操作に関する指示であり、発話解釈過程において聞き手が行う推論処理の仕方に制約を課す情報である。このような情報によって、聞き手が取るべき推論の方向が指示され、無駄な労力を使わず効率よく意図された効果を得るようになる。

参考文献

- 小泉保 (1987) 「譲歩文について」『言語研究』 91
- 才田いずみ・小松紀子・小出慶一 (1983) 「表現としての注釈—その機能と位置づけ」『日本語教育』 52
- 東森勲・吉村あき子 (2003) 『関連性理論の新展開—認知とコミュニケーション』 研究者出版
- 김용석 Kim, Y.S. (1981) 「연결어미 ‘-는데’에 대하여」『배달말』 6
- 남기심・고영근 Nam, G.S. & Go, Y.G. (1993) 『표준국어문법론개정판』 탐출판사
- 노은주 Noh, E.J. (2008) 「The meaning of Korean connective -nuntey」『담화인지언어학회 발표논문집』
- 서정수 Seo, J.S. (2006) 『국어문법』 한세본
- 이기동 Lee, G.D. (1979) 「연결어미 ‘-는데’의 화용상의 기능」『인문과학』 40-41

- 이창덕 Lee, C.D. (1996) 「‘는데’의 기능과 용법」 『텍스트언어학』 2
- 장경희 Jang, G.H. (1995) 「‘는데’로 표현되는 배경와 모습 관계의 특성」 『한양어문연구』 13
- Blakemore, Diane (1987) *Semantic Constraints on Relevance*, Blackwell, Oxford
- Carston, Robyn (2002) *Thoughts and Utterances: The Pragmatics of Verbal Communication*, Blackwell, Oxford
- Sperber, Dan&Deirdre Wilson (1986/1995) *Relevance: Communication and Cognition*, Blackwell, Oxford

用例出典

種類	タイトル	分量	表記	
話しことば	テレビ ドラマ	고맙습니다 ありがとうございます	60分	ありがとう
		꽃보다 아름다워 花より美しく	60分	花より
		내 이름은 김삼순 私の名前はキム・サムスン	60分	サムスン
		모래시계 砂時計	60分	砂時計
		미스터 굿바이 ミスターグッドバイ	60分	ミスター
		베토벤 바이러스 베ートーヴェンウイルス	60分	ベバ
		커피프린스 1호점 コーヒープリンス一号店	60分	コーヒー
		포도밭 그 사나이 ブドウ畑のあの男	60分	ブドウ畑
	텔레비 トーク 番組	상상 플러스 想像プラス	60分	想像
		솔로몬의 선택 ソロモンの選択	60分	ソロモン
	좋은 아침 良い朝	60分	良い朝	
라디오	여성 시대 女性時代	240分	女性時代	
書きことば	説明文 文化	과학혁명-근대과학의 출현과 그 배경 科学革命-近代科学の出現とその背景	31648 語節	科学革命
	説明文 文化	언어와 사상-전통문화와 민족정신 言語と思想-伝統文化と民族精神	16197 語節	言語と思想
	雑誌	시네 21 シネ 21	27802 語節	シネ 21
	新聞 コラム	한국일보 韓国日報	18707 語節	韓国日報